

東中小学校R5 学校評価まとめ（年度末評価）※（ ）は中間評価との差 赤字は前回より下がった項目

できている どちらかというときてきている どちらかというときていない できていない

【分析】学習・行事を通して前向きに学ぶ姿が伺えた一方で「自ら学ぶ」力の育成が必要

A 前向きに学び続ける力

授業場面

(1) 子どもは自ら課題を捉え、解決に向けて意欲的に取り組んでいるか

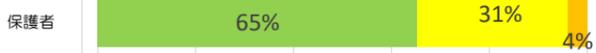


3.3 (+0.2)

【家庭の声】

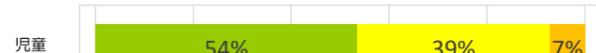
授業の様子はあまり話をしてくれないので分かりませんが、宿題や家庭学習の内容から見て今のところついていけていると感じます。

① お子さんは、意欲的に授業や行事に取り組んでいますか？



3.6 (+0.2)

① 授業の始めでは何を学ぶか理解してから取り組んでいるか



3.5 (±0)

【現状と今後に向けて】

教師側からは与えられた課題に対して真摯に学ぶ姿が伺えたと認識する一方で、児童からは「読解力」「計算力」「発表力」をもっと伸ばしたいという声が見られた。

家庭

⑨ 子どもはやる気をもって宿題や家庭学習に取り組んでいるか



3.0 (-0.2)

【家庭の声】

・学校には楽しく通っていますが、家庭学習が難しいところです。
・ゲームをしてよい条件として宿題や家庭学習を終えてからというルールにしています。そのため自ら学びというより仕方なく嫌々やっている様子が伺えます。

② お子さんは自ら進んで家庭学習に取り組んでいますか？



3.1 (+0.2)

⑨ 宿題や家庭学習に工夫して取り組んでいるか



3.5 (±0)

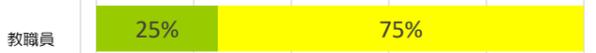
【現状と今後に向けて】

宿題には取り組むが、「児童が自ら工夫した学びを行うこと」には課題がある。学校として「家庭学習の定義」を見直し、児童・家庭・学校が共通理解することが必要。

B 失敗をおそれず自分なりの表現をつくりだす力

主に授業場面

② 子どもは根拠をもとに意思決定し、自分なりの考えを表現することができるか（授業での見通しや個人思考）

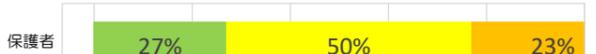


3.3 (+0.2)

【職員の声】

・どの学習においても事前に見通しや、どんな力をつけることを期待しているかを伝えていく。
・調べ学習などでは自ら課題を追究しそれぞれしっかりとした発表物や成果物を作成することができていた。

④ お子さんは自分の考えや意見を自信をもって伝えていきますか？



3.0 (±0)

【家庭の声】

・自分の考えをもっているのに恥ずかしくて伝えられないというところがあるようです。

② 予想を立てたり自力解決するときは、理由をつけてノートに考えを書いたり発表したりしているか



3.3 (-0.2)

【授業場面における現状と今後に向けて】

児童自身が身に付けたい力で「自信をもって発表したい」と答える子が多かった。課題に対して考えをもつことはできているので、新年度も「みんなで考えを出し合って課題を解決する」経験を増やすとともに西小との合同学習の機会も計画的・効果的に活用していく。

主に行事

⑤ 子どもは自分の思いや練習の成果を自信をもって表現することができるか



3.8 (+0.3)

【職員の声】

マラソンや縄跳び、読書などそれぞれの目標に向かって粘り強く取り組む雰囲気全校的に形成されている。

⑤ 自分の考えや練習したことを自信をもって表現することができるか



3.5 (±0)

【行事における家庭の声】

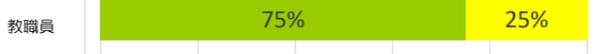
行事ではたくさんのお子さんがあり、家でも練習する姿が見られ自らががんばろうという気持ちが現れていた。本番を終え「できた」という達成感と自己肯定感をもつことができていました。

【分析】校内においては引き続き互いを尊重し合って生活している様子が伺える。対外的なあいさつには課題あり。

C 進んであいさつしよりよい人間関係を築く力

他者のよさを認める

⑥ 子どもは互いのよさやがんばりを見つけ、高め合う姿が見られるか



3.8 (+0.2)

【職員の声】

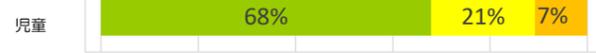
行事や体力作りなどでは学年を越えて声をかけ合う姿が見られ素晴らしいと感じている。

⑧ お子さんは他人のよさや他の考えを素直に認めることができますか？



3.2 (+0.1)

⑥ 友達のよさやがんばりを認め、よりよいクラスにしようとしているか



3.5 (±0)

【保護者の声】

・学校ではあいさつできているようですが家庭ではそこまでできていないように感じます。家では「家モード」でお客さんなどに挨拶できなくて困ったことがありました。
・恥ずかしさもあるようで積極性には課題があります。生活の中で

進んであいさつ

⑦ 子どもはいつでも誰とでも心が通う挨拶をすることができるか



3.3 (-0.1)

⑦ お子さんは、家族や地域の方に進んで挨拶をすることができますか？



3.3 (-0.1)

【現状と今後に向けて】

校内での「あいさつシール」「あいさつ王」などの取組で意識は向上している。一方で、学校外であいさつをする機会が減っていることもあり新年度は児童と共（ふれあい会など）に向上するための方策を考えていく。

⑦ 誰にでも大きな声で自分から挨拶ができているか



3.4 (±0)

【分析】縦割り班や行事では互いの意見を話しやすい人間関係の良さが生かされている。難しい課題に対しての対話力には伸びしろがある。

D 対話や体験を通して策を見出す力

主に授業場面

③ 子どもは対話を通し、相違点や共通点、解決策を見つけ出すことができるか（集団思考）

教職員	13%	63%	25%	2.9 (-0.3)
-----	-----	-----	-----	------------

③ 話し合うときは自分の考えと友達の考えの相違を意識したり、よりよい考えがないか話し合うことができるか

児童	71%	21%	4%	2.9 (-0.3)
----	-----	-----	----	------------

【職員の声】
・自分から他に働きかけることや、自分の考えを伝えながら解決策を見出したり高めていこうとしたりする部分が少し不足しているかと思う。

【現状と今後に向けて】
後期は学芸会や収穫祭などの行事があったため、各学年で「話し合うことができた」と答える児童が飛躍的に増えた。小規模校ならではの異学年交流が有効に機能したといえる。一方、通常教科においては「自信をもてない」児童もいることから「付けたい資質・能力B」に即した方策を考えていく必要がある。

D 対話や体験を通して策を見出す力

主に家庭

⑩ 子どもは経験を生かしてよりよい案を考えることができるか

教職員	38%	63%	0%	3.4 (+0.4)
-----	-----	-----	----	------------

⑥ お子さんはご家族と学習・生活のことや悩み事についてコミュニケーションをとることができていますか？

保護者	42%	42%	15%	3.3 (+0.1)
-----	-----	-----	-----	------------

⑩ いろいろな人から話を聞いたり体験したりすることで新たな発見やよいアイデアを考えることができたか

児童	38%	63%	0%	3.3 (-0.4)
----	-----	-----	----	------------

【現状と今後に向けて】
生活科や社会科見学、総合的な学習の時間などで、学校外で学ぶ機会が増えてはきたが、まだまだコロナ禍以前の学びには戻り切れていない。新年度は今年度より地域・社会に飛び出して、学んだり新たな価値に気付いたりする機会を増やしていく。

【分析】苦手なことや興味外のことに對する粘り強さに課題が見られる。

E めあて達成に向け 粘り強く取り組む姿

生活習慣

⑧ 子どもは基本的な生活習慣が身に付いているか

教職員	88%	13%		2.9 (-0.3)
-----	-----	-----	--	------------

⑨ お子さんは規則正しい生活をしていますか？

保護者	38%	50%	12%	3.3 (+0.2)
-----	-----	-----	-----	------------

⑧ 規則正しい生活をし、自分のことは自分でしているか

児童	36%	46%	14%	3.3 (-0.2)
----	-----	-----	-----	------------

【現状と今後に向けて(生活習慣)】
学校においては授業時間と休み時間、清掃時間などの時間を意識して生活する態度を養っていく。家庭に対しては新年度も生活リズムチェックシートに加え、保健指導・学級指導を通し「睡眠時間の確保」「デジタルデトックス」「食育指導」を中心に啓蒙を図っていく。

【職員の声】
・マラソンやなわとび、読書など「みんなでやろう！」という気持ちをもっていたので、どの取組も充実したものになった。
・学習や行事に対して振り返ることは概ねできているが、経験を活かして次のめあてを作る力は弱いと思う。

【家庭の声】
・好きなこと、興味のあるものには粘り強く取り組むが、苦手なものは「苦手だから・・・」とやりたがらないことがあり差が激しい。
・粘り強く取り組んでいるが自分の思い通りにならないと助け舟を出しても拒否してしまうことがある。落ち着いてからでないに進まないことがある。

【現状と今後に向けて(粘り強さ)】
「粘り強さ」を育むことは年間通して課題が残ったと言える。苦手だったり困難だったりすることにどのように向きあつたらよいのか、その方法を児童に示す方策が必要である。

⑪ 子どもはめあてに向かって行事や体力づくりに粘り強く取り組んでいるか

教職員	75%	25%	0%	3.8 (+0.7)
-----	-----	-----	----	------------

③ お子さんは物事に粘り強く取り組むことができますか？

保護者	19%	42%	38%	2.8 (-0.1)
-----	-----	-----	-----	------------

⑪ めあてをクリアできるように粘り強く取り組んだか

児童	71%	21%	7%	3.7 (-0.1)
----	-----	-----	----	------------

【分析】学校の取組については概ね高評価をいただいている。学習内容の理解度の捉えについては課題が見られる。

学校に取り組みに対する設問

【学校の取組】

⑩ 学校は地域の方と連携したり地域のフィールドを生かした教育活動を行っていますか？

保護者	69%	23%	8%	3.6 (±0)
-----	-----	-----	----	----------

⑪ 学校はお子さんの様子や出来事を積極的に伝えていきますか？

保護者	69%	31%		3.7 (-0.1)
-----	-----	-----	--	------------

⑫ 学校は感染症対策やいじめ防止など学校生活に関わる危険管理に努めていますか？

保護者	73%	23%	4%	3.7 (±0)
-----	-----	-----	----	----------

⑤ お子さんは、学習した内容をよく理解し身に付いていますか？

保護者	23%	65%	12%	3.1 (±0)
-----	-----	-----	-----	----------

【現状と今後に向けて】
概ね肯定的な評価をいただいたが

- ①「Withコロナ時代」における地域との連携の進展、強化を。
- ②教育活動を分かりやすく発信(学校だより、HP、学級通信)することの継続、深化
- ③「学習がよく理解できている」との回答を増やす

などの取組は必要